

I. 認証評価制度の高校側から見た現状認識について

a. 高校生、高校の先生方が認証評価の結果を活用しているか。そもそも認識されているか。

高校関係者に問い合わせた範囲では、現状では、ほとんどの高校生や高校教員は認証評価制度の存在を認知しておらず、評価結果の活用もされていないと思われる。また、7年に一回の認証評価だけでなく、毎年更新されているという、大学ポートレートや教育情報公開のデータについても同様に、認知されていないのではないかな。

b. (認識/活用されていない場合) その要因としては何が考えられるか。

例：評価結果が分かりづらい、制度の社会的認知度が低い、等

- 1) 評価結果の分量が多いことが挙げられるが、内容的に大学の経営面（質保証や組織問題など）については全学的な評価であっても、教学面については学部毎の評価でないと進路選択の情報になりにくい。（以前は、両面とも学部毎の評価であったと聞いているところだが）
- 2) 適合・不適合の二元論的評価であるため、各大学の差異がよくわからない。同じ適合であってもマイナスポイントを指摘していることが多く、各大学の優れている点や独自の点などを端的に評価していないので、活用できないのではないかな。
- 3) 7年に一回の評価という認証評価結果と、毎年更新されているという、大学ポートレートや教育情報公開のデータなどが連動して、わかりやすく提供されておらず、全体として大学毎の違いや各大学の変化を把握できないのではないかな。

II. 新たな評価の検討に当たって考慮してほしいことについて

a. 高校生は現状どのように大学を選択しているのか。今後、どのような観点から大学が評価されていれば、より進路選択や進路指導がしやすくなるか。

- 1) 高校生の進路選択は学問や職業への興味関心から選択することが基本であるべきだが、入学の可能性を学力偏差値（相対評価）で測ることで、大学を選択している実態がある。少なくとも各大学における三つのポリシーについて、とりわけアドミッション・ポリシーについては、推薦入試をはじめ、大学及び学部選択の基本的な情報となるので、高校生や高校教員にわかりやすく提示しているかどうかを評価しても良いのではないかな。
- 2) 中等教育の後期課程である高校は、学習指導要領に基づいた学力観（学力の三要素）の下で資質・能力の育成を目指している。その資質・能力を多面的・総合的に評価する入学者選抜になっているかは、大学選択を左右するポイントになる。認証評価においても、本来あるべき入学者選抜になっているかを評価することが肝要ではないかな。

- b. 現状の認証評価制度が認識/活用されていない要因について、どのように改善すれば認識/活用され意義のある制度になるか。

例：各大学の教育の質を視覚的に分かりやすい形かつ高校生目線で比較可能な形で公表する、等

- 1) 各評価項目について、複数段階のレーダーチャートで示すことも考えられるが、少なくとも各大学の独自性や特性を示すことが肝要ではないか。その際、大学卒業者の進路状況や大学教員の教育活動や研究論文数、それらの質的評価などを示すことで、各大学の実際の状況を示していることになるのではないか。

- c. 進路選択や進路指導する上で、大学がどのような情報を公表していることが望ましいか。

また、その情報がどのように整理されていることが必要か。

- 1) 各大学の多様な取り組みや、それらの質的な違いが分からなければ大学選択に繋がらない。それらが、各大学のウェブサイトにおいて、視認しやすい場所に掲載すること。さらには、文部科学省が各大学の評価結果を集約して情報提供することがあっても良いのではないか。

Ⅲ. その他の自由意見

- 1) 各認証評価機関の評価基準がどの程度統一されているか、よくわからない。社会に広く評価されて信頼される認証評価制度となるためには、評価機関に対する評価や認知度を向上させることが肝要でないか。
- 2) 国際社会の変化に対応すべく「知の総和」の進展を期するのであれば、大学評価の国際ランキングなども無視できない。日本の大学にとって教育の国際化（例えば、留学生数や二言語教育）の度合いなども、新たな評価基準に含めていくことが求められているのではないか。